

Ⅲ 養 豚 部 門

1. 診断農家成績の分析概要

令和3年度畜産経営技術高度化促進事業実施にあたり、養豚部門の経営診断指導対象（経営診断に基づく改善指導3戸、生産技術指導2戸）の中から総合的な分析に必要な数値が把握できた3事例について概要を述べる。

近年、神奈川県内の養豚経営においては、都市近郊の畜産経営として生産地でありながら消費流通の地でもあるため、多種多様化する生産販売方式により、その経営方針も多様化している。現在では銘柄グループによる豚肉の生産はもとより、各経営での銘柄柄としての生産も多くなり、種豚のタイプ（繁殖性重視や発育性重視、肉質重視など）も様々で、一様に枠にはまらず各々が特色を生かした経営方式となっている。そのため今後は項目ごとの指標に縛られない分析を行う事とする。

（1） 経営の概況

- ◆ 3事例とも繁殖・肥育一貫経営であり、すべて養豚専業経営である。
- ◆ 経営組織として3事例（No.1・No.2・No.3）全てが法人経営ある。
- ◆ 労働人員1人当り母豚飼養頭数は全3例の平均で62.9頭であった。

（2） 繁殖成績

◆ 人工授精の活用

3事例の平均母豚飼養頭数332.5頭に対して、平均飼養種雄豚数は9.7頭で、雄豚1頭当りの母豚数は平均34.2頭（頭）となっている。これは自然交配主体（以下NS）か人工授精技術活用（以下AI）かによって異なる。

3農場全てでAIを活用しており、利用方法は自家採取での100%AIまたは購入精液である。100%AI活用農場での雄豚保有頭数は母豚18.3～48.1頭に対して1頭で、比率の低い農場はF₁生産のための純粋雄豚（L・W）を抱えていることが関係していると思われる。

◆ 1腹当りの生存子豚、離乳子豚頭数と育成率

1腹当り生存子豚頭数は平均11.2頭（10.5～11.5頭）となり3農場中2農場で11.5頭となり残りの1農場で1腹当たり年間平均生存産子数が10.5頭となった。今後とも分娩時の助産や交配適期をつかみ、ずれによる受胎数（総産子数）の低下を防ぎ、日常の発情チェックや夏場の精液チェックなど季節ごとに応じた交配妊娠管理を行う等、生存産子数の増加に努めて欲しい。

1腹当り離乳子豚頭数の平均は9.6頭（8.8～10.1頭）となり昨年平均より0.3頭の減となった。今期は育成率の低さが離乳頭数の減になった要因となった。

離乳子豚数は生存子豚数や育成率などによって大きく変動する。正常な飼育管理下に

おける1腹当りの産子数は、母豚の品種構成や遺伝的資質によるところが大きく、これに交配時の発情状況（交配適期）と交配精液性状、種付け回数などが総合されたものであるため、人為的に大幅増やすことは難しいものの、離乳子豚数の改善策としては分娩施設面の見直し、分娩・哺乳時のきめ細やかな管理や分割授乳の導入、夏場の圧死対策などの飼養管理改善による育成率の向上を目指す方が容易であろう。

育成率は平均85.3%となり、3事例全てで90%を超えた農場は無く、90%に達しない経営は哺乳豚管理の見直しが必要。また、全ての事例で哺乳中の子豚事故で1腹当り1頭以上を損耗しており、哺乳子豚管理の見直しが必要である。

◆ 離乳日令と分娩回転数

平均離乳日令は27.8日で前年より1.1日増加した。

分娩回転数の平均は2.30回転で、最低値2.25～最高値2.35と大きなバラツキは無いものの2.3回転以上で安定出来るようにしたい。

◆ 更新率

3例の種雌豚更新率平均は48.6%であったが、更新に際しては年間を通じて毎月安定した分娩数が得られるように計画的に行うことが望ましく、また、淘汰・更新は固体ごとの繁殖成績記録によつて的確に行い、母豚群の平均産次を4～5産にすることが望ましい。

（3） 肥育成績

◆ 母豚1頭当り出荷頭数

1母豚当り出荷頭数は、17.3～20.9頭となり、平均は18.9頭と前年平均より1頭の減となった。出荷頭数が少ない場合の原因としては、いろいろな要因が複合した結果ではあるが、その主な要因として考えられるものに育成率の低下につながる哺乳中子豚の事故と離乳後の育成から肥育出荷までの事故による損耗がある。

今期は、生存産子数の減少があった農場や育成率が低下した農場、離乳後事故率が上昇した農場など、各農場でそれぞれに繁殖成績及び肥育成績が低下したことが出荷頭数の減少に繋がっている。

◆ 事故率

離乳から出荷までの事故率の平均は9.7%となり前年度平均より1.0%の上昇となった。本年度はNo.1とNo.2の農場で平均事故率が高く、冬場の事故率の上昇が見られた。農場間較差は3.6%～15.0%となった。

近年、PRRSやPED等の新しい病気や、ヘモフィルス、パスツレラ等の慢性呼吸器疾病も広く浸潤している中で事故率3%以下という指標は高いハードルとなっているが、4%前後まで各農場が到達し日々の飼養管理や衛生管理が数字となって表れた結果となった。

◆ 肉豚・枝肉の出荷

本年度の平均出荷生体重は118.0kgで前年平均と比べ0.3kg上回った。平均枝肉重量

は 79.2kg で前年平均と比べ 1.3kg 上回り、肉豚出荷豚の枝肉歩留まり率は平均で 66% となった。本年度は各経営にバラツキがあったものの枝肉重量の増加がみられ種豚も大柄な系統を取り入れている経営も出てきている。

◆ 飼料要求率

本成績の農場飼料要求率の積算は、農場内での飼料給与総量を肉豚出荷生体量と候補豚頭数（110kg と推定）の合計体重で除したものであり、活豚出荷、棚卸体重の増減を見ていない。

農場飼料要求率は平均で 3.44（3.37～3.50）であった。農場要求率には事故率が大きく影響し、特に肥育中期以後の事故が大きく関与するので事故内容を把握した損耗防止対策が必要である。

（４） 収益・経済性分析

◆ 種豚 1 頭当り生産物売上高

養豚一貫経営における収益性を検討するにあたり、母豚 1 頭当りの生産物売上高をみると表－2・表－3 にあるように、平均 808,317 円（694,700 円～901,566 円）で前年平均より 4,741 円の減収であった。

出荷豚の枝肉 1 kg 当り販売額は表－3 に示すように平均 545 円となり、前年度平均と比べ 18 円の増額となった。

戸々で見ると No.1 は 546 円（前年 543 円）、NO.2 は 545 円（前年 511 円）、NO.3 は 544 円（前年 527 円）と 3 農場全てで増額となった。各経営の決算期の関係による市場価格差もあり一概に比較出来ない部分もあるものの、銘柄豚生産割合や上物率等の違いも、価格差を大きくする要因の一部である。

肉豚出荷価格の年間変動は大きく、出荷のタイミングによって同質の肉豚でも大きな収益差が生じる。令和 2 年度の東京市場上物価格は平均 570 円で前年度市場平均より 50 円高で高騰した金額で推移した。令和 2 年 4 月からコロナ感染症のまん延防止対策による緊急事態宣言が発令されて以降、食事の傾向が肉食に切り替わりテーブルミート主体である豚肉相場の上昇に繋がったもの考えられる。

令和 2 年度 東京市場 上物平均枝肉卸売価格

(円/kg)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
611	631	623	641	634	621	537	531	534	497	499	480

◆ 生産費

種雌豚 1 頭当りの生産費用及びその構成費目の内訳については表－2 に示すとおりである。

種雌豚 1 頭当りの 3 事例平均生産費用は 635,896 円となり、その構成費割合を円グラフにしたものが図－1 である。平均では構成費割合の大きい順に、飼料費が半数の

50%を占め、次いで人件費（給与手当＋役員報酬）が 23%、衛生費 9%、これらの主要 3 費目で 82%となった。また各農場の主要費目割合を棒グラフにしたものが図-2 である。

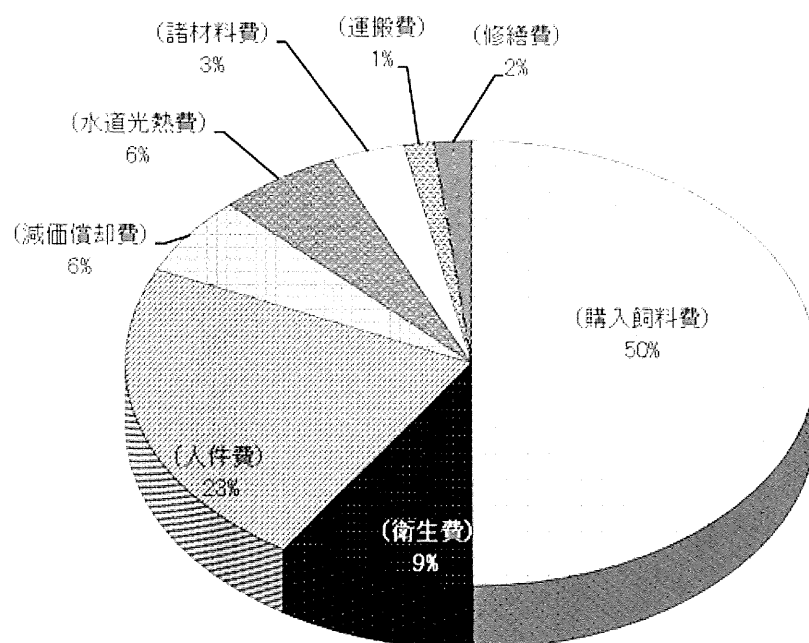


図-1. 生産費用の構成比割合

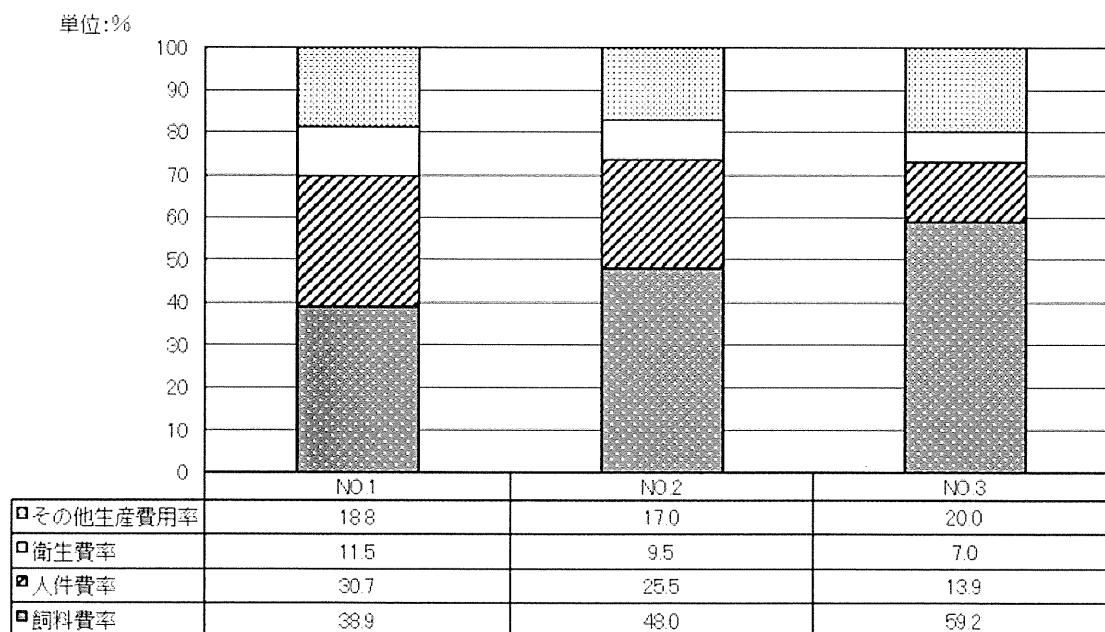
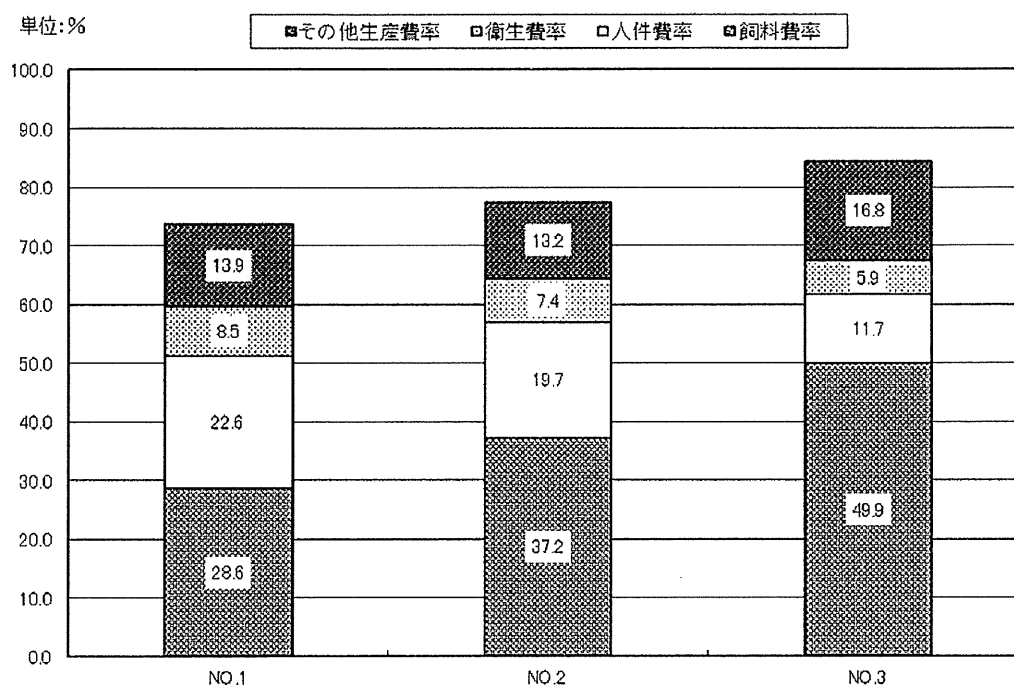


図-2. 生産費用の構成比割合

◆ 売上高に占める主要生産費の割合

売上高に占める各生産費目の割合は、図－3 に示すとおりである。飼料費の割合については3農場の平均は38.6%で前年より1.6%減少した。

種雌豚1頭当りの生産物売上高と生産・販売費用を対比してみると、図－4 のようにNo.1 及び No.2 の経営で生産物売上高が生産・販売費用より上回った。



図－3.売上高に占める主要生産費の割合

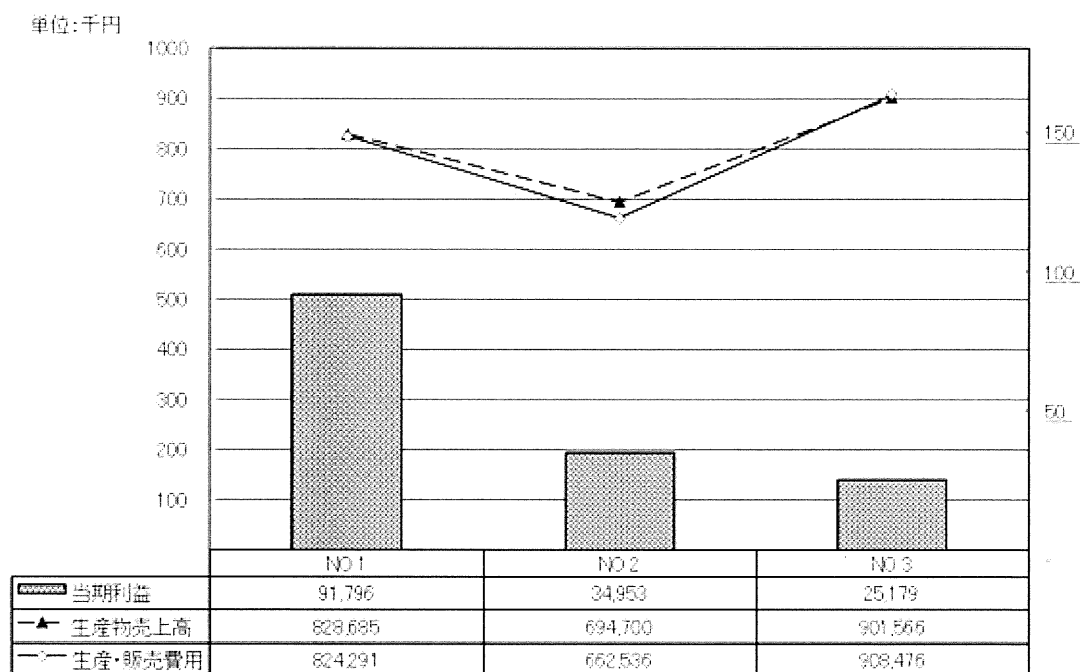
◆ 飼料価格

生産費で最大構成比率を占める飼料費の1kg 当り加重平均価格は表－3 に示すように3事例中2事例のデータ集計であったが47.0 円となり前年平均より2.3 円安となった。それぞれの飼料単価については、年間全飼料購入金額を全購入量で除したもので、自家配合（原材料価格のみで労賃をみない）、をしているところ等があるため単純に比較はできない要素もあるが、購入単価以外にも飼料給与体系の検討が望まれる。また、食品未利用資源の活用により、飼料単価を抑えている事例もある。

◆ 種豚1頭当り利益

1母豚当たりの飼料費（加重平均）は315,053 円（前年比95.1%）となり、母豚当たりの生産原価では623,382 円（前年比97.1%）となった。No.1 では衛生費、人件費

の費用増額による生産原価の上昇があり、No.2 では農場飼料単価が下がったことと、1 母豚当たりの出荷頭数の減少（繁殖成績の低下）による飼料費の減少が重なり生産原価の削減となった。また、売り上げに関しては、種雌豚 1 頭当りの当期利益の平均は 50,643 円となり前年平均と比べ 3,209 円と増額になった。



図－4. 種豚1頭当り売上高と経常利益

◆ 種雌豚当り所得

3 事例の種雌豚 1 頭当り所得平均は 68,030 円（36,495 円～122,664 円）となった。所得は当期利益に役員報酬又は家族労賃を加えたもので、役員報酬（家族労賃）の高低が大きく関係している。

2. 指導の方向と対策

令和 2 年度は全国的にも C S F（豚熱）の国内の発生により農場の防疫対策の強化により衛生費が上昇した経営も見られるなど、生産原価は平均では減額したものの、前年度よりやや上昇した経営もあった。今後とも P E D 及び C S F 侵入防止対策等による衛生費はある程度かかることが予想されるため、生産性向上による効率の良い経営を行うことが重要である。

また、輸入飼料原料価格の値上がりに伴う飼料購入価格の上昇により、生産コストとして生産原価内の飼料費比率の上昇が見込まれる。豚肉卸売り相場の高止まりが続いている現状ではコスト吸収できるが、今後の相場の動きによって厳しい状況に追い込まれ

ることが考えられるため、飼養管理の改善や施設改修、事故率の低減等、多面的な方向から飼料費の削減について検討を要する。

(1) 繁殖性向上対策

◆ 受胎率の向上

受胎率向上には授乳母豚の個体栄養管理を徹底して行い、適度なボディーコンディションで離乳し、5日以内での発情再帰を促し、初発情交配で85%以上の受胎率を目指したい。

受胎の成否は自然交配、人工授精を問わず交配適期の把握が最も重要であり、そのためには発情状況の観察を注意して行い、2～3回の複数回交配が望ましい。最近では深部注入型のカテーテルも普及し的確に精液を注入することにより受胎率や産子数の安定化につながっている事例もある。自家採取の人工授精に当たっては正常精液の利用が前提であり、定期的な精液検査は欠かせない。

再発情豚の交配に当たっては、発情徴候、交配時期に留意し、さらに不受胎となった場合の供用継続か更新かについては早期に判断する。妊娠鑑定は早期に確実にを行い、空胎豚の無駄な飼養を無くし、妊娠豚に関しては個体管理を徹底して事故防止に努める。また、受胎率低下は夏場交配（暑熱環境）によることが多く、雄豚へのドリップクーリングや気温の上まらない早朝に交配を行うなどの夏場対策が必要である。

◆ 育成率の向上

種雌豚1頭当りの生産性を上げるには、育成率の向上と安定が欠かせない。育成率向上の要点は、哺乳子豚の飼養・衛生管理で、本事例中の哺乳子豚事故内容として虚弱と圧死によるものが多く、虚弱に関しては妊娠豚の適切な栄養管理を行い、なるべく虚弱子豚を出さないよう心掛ける。また、圧死に関しては分娩房の構造や子豚の居住環境、母豚の性質・泌乳能力、夏場に圧死が多い場合には暑熱環境による母豚の水飲み回数（起き上がり回数）が哺乳子豚の圧死事故につながる場合もあり、季節や温度管理、施設構造など幾つかの要因が考えられるので、原因の究明と対策が必要である。県内の優良事例では分割授乳や授乳母豚の飼料給与中は哺乳子豚を隔離することで圧死等の事故低減を図り、育成率の向上に成功している事例もあることから、分娩看護及び哺乳管理に問題のある事例はこうした、管理も取り入れながら、改善に取り組んで欲しい。また、十分な労働力の確保が難しい時に疎かになりがちの部分でもあり、今後の改善には均一的な労働力確保か計画的な交配分娩管理も必要。

(2) 肥育成績向上対策

◆ 種雌豚当り出荷頭数の増頭と事故率の低下

対象経営における肥育成績の改善ポイントは種雌豚 1 頭当り出荷頭数、即ち枝肉出荷量の向上にある。多様化する疾病に対する予防対策の徹底と密飼い等の飼養管理を改善することにより、生産した豚の損耗を防止し事故率の低下に努めて欲しい。また、今後は多産系との交雑や改良などによる生産子豚の増頭も考えられるため、哺乳管理や離乳舎以降の飼育密度や換気などに留意したい。

離乳後事故率に関しては、表-4 にあるように平成 23 年以降、減少傾向にあったが、近年は上昇傾向にある。事故の内容は主に PRRS と呼吸器系による被害が多く、離乳後 30kg までの事故が目立っている。オールイン・オールアウト後の徹底した洗浄・消毒・乾燥の実施、外部導入豚の馴致や作業域の区別や人の流れ、ピッグフローの見直し等、各農場での問題点の把握と各機関との連携による改善が必要である。

◆ 出荷豚（肉質）評価の向上

肉豚評価を左右する主な要因は概ね 3 つに大別される。

- ① 素豚（遺伝的要因）
- ② 飼養技術（飼料の質・栄養水準と給与方法、豚群の編成等）
- ③ 出荷技術（出荷日令・体重・出荷先選定）

最も基本的な要因は①の遺伝的資質であるが、これは母豚群の品種・系統構成によるもので長期にわたるデータに基づく選抜が基本で短期的な改良は難しい。

飼料の質と給与方法については、素豚の資質にあった栄養レベルの飼料により適度な発育の早さ（出荷日令と体重）で高い上物率が得られるよう飼料の選択と給与をする。

同時離乳腹数の多い大型経営ではできるだけ同質、近似日令の豚群編成に心掛け、雄雌別群として豚群の資質と発育ステージにあった段階的飼料栄養水準飼料の給与（フェイズフィーディング）を行う。

肉豚出荷に対しての個体チェックは不可欠であり、個体計量はその基本である。個体標識により、個体経歴から枝肉評価まで一連のデータとしてその結果が次の交配や選抜・淘汰にフィードバックできるシステム化が望ましい。

（3）畜産環境対策

家畜排泄物は、これまで畜産業における資源として農産物や飼料作物の生産に有効に利用されてきた。しかしながら、近年、畜産経営の大規模化の進行、高齢化に伴う農作業省力化等を背景として家畜排泄物の資源としての利用が困難になりつつある一方、地域の生活環境に関する問題も生じている。

畜産経営に起因する環境問題発生率は、家畜飼養規模の拡大や混住化の進展等に伴い増加している。そうした中で、苦情の内容は全家畜を通じて悪臭関連が最も多く、ついで害虫発生や水質汚濁である。家畜排泄物について、その適正な管理を確

保し、堆肥として活用するなどの資源としての有効利用を一層促進していく必要がある。

◆ 臭気対策

畜舎内の臭気は舎内にある糞尿の量に左右され、畜舎内の基本的な臭気対策は糞尿の早期搬出の励行である。また、周辺の住宅事情等によっては周囲から苦情の出る前に消臭剤・脱臭剤の利用など、先手を打った行動が極めて重要である。

また、近年は脱臭対策の研究も進み、海外の脱臭装置や畜舎内ミスト等を活用した粉塵対策を行うことにより臭気低減の取組研究なども行われている。

◆ 堆肥の流通促進

有機農産物需要を背景に家畜糞の需要があるものの、都市近郊では露地野菜からハウス栽培への変更や高齢化による耕作放棄地の増加などにより、堆肥の需要も減少傾向にあり、地域を越えた広域流通化も視野にいれる必要がある。

今後、畜産サイドも堆肥づくりだけでなく、いかに利用者側の意見や希望を吸収し製品を提供できるかが課題になる。まずは生産した堆肥の成分程度は知っておく必要があるだろう。

(4) 食肉の販売取り組み

◆ 安全性・信頼性をアピールできる県産豚肉の生産・販売

近年、国内外の家畜や家禽の疾病の発生に伴い、消費者は食肉の安全性・信頼性にとっても高い関心を持つようになった。これからは消費者に対する食肉の安全性・信頼性の提示は必要不可欠なものとなる。そのためには生産段階での適切な飼養管理をきちんと行い、より健康で安全な食肉を消費者に提供しなければならない。また、近年、農場段階での HACCP 構築が取組まれ始め、飼養衛生管理基準の遵守をはじめ、農場の各作業工程をきちんと管理することで、農場内にある危害要因を管理コントロールし、安全な食品原料を供給することで、国内畜産物の安全性をより消費者に対してアピールしていく重要なツールとなると考えられる。今後、農場から食卓までのトレーサビリティシステムの構築や JGAP 認証への取組みなど消費者の目に見える安心安全を目指す。

附録

《飼料費高騰における養豚経営の体質強化へ向けた取り組みについて》

配合飼料価格の高騰により生産原価の上昇が見込まれる中で、効率的な生産性の確保や損耗の防止、出荷選別の精度の見直しなどによる一母豚当たりの収益性を確保することで生産コストの上昇に耐える経営体質強化へ繋げる。

【生産性】：1母豚当たりの生産性を上げる。

現在、県内の養豚一貫経営における1母豚当たりの年間離乳子豚頭数は20頭～23頭程度で推移ししていると思われる。育成肥育期間中の損耗率を7%程度と考えて年間一母豚当たり出荷頭数は18.6頭～21.4頭となる。都市近郊で消費者の顔が見える環境で経営を行っている県内においては肉質重視の種豚を選択する生産者が大多数を占めている。これは現在、仲卸やバイヤー、販売店、外食産業の評価があって取引価格が優位になっている事を考慮すると、多産系種豚の活用を検討する場合には、取引先からの肉質評価の影響も併せて検討する必要があると考えられる。

1母豚当たりの肉豚出荷（出荷枝肉量）が多いほど、効率的に母豚の生産性を確保出来ている事になるため、種付け・受胎→分娩管理→哺乳管理→育成・肥育管理→適正出荷体重管理、これらの項目について各経営で課題となっている項目の洗い出しと改善に向けた取り組みを行うためには、まず、きちんと生産データを記録集計し分析することが大切である。

【生産コスト】：飼料原料や燃料の高騰による飼料費率の上昇を抑えるには。

指定配合や独自の配合設計を行っている場合には配合設計の見直しによる飼料単価の低減につなげる。（直接的コスト削減）

母豚1頭当たりの生産効率上げることによる肉豚1頭当たりの生産コスト削減。「人件費、機械施設償却費、種豚の更新や維持費など」肉豚出荷頭数の変動に左右されない固定的な費用は生産性を上げることで肉豚1頭当たりに換算するとコスト削減されるものもある。また、餌こぼしや肥育期の事故率を極力低減させることにより、給与飼料のロスを少なくすることが出来る。（間接的コスト削減）

【販売売上】：1母豚当たりの出荷頭数及び枝肉重量の確保。

適正出荷体重と枝肉評価（格付け評価と取引価格）

出荷選抜を的確に行うことで貫大オーバーや脂肪圧等による格付け評価のダウンによる取引価格の低下や銘柄率の低下を防ぐ。

3. 経営診断分析図表

表一1 令和2年度 養豚経営技術分析数値(経営規模・繁殖・生産技術)

区分	項目	(H28) NO.1	(H29) NO.1	(H30) NO.1	(R1) NO.1	(R2) NO.1	(H28) NO.2	(H29) NO.2	(H30) NO.2	(R1) NO.2	(R2) NO.2	(H28) NO.3	(H29) NO.3	(H30) NO.3	(R1) NO.3	(R2) NO.3	平均値	最大値	最小値
経営	経営形態	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営			
	労働力1人当り飼養豚数	60.4	63.6	63.7	65.1	66.2	55.1	54.3	58.0	56.2	57.7	51.8	51.0	56.9	56.5	64.7	62.9	66.2	57.7
繁殖	労働力1人当り飼養雄豚数	1.4	1.5	1.6	1.4	1.4	3.9	3.9	4.0	4.2	3.2	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	3.2	1.4
	1 腹当総産子数	11.8	11.6	11.6	12.4	12.7	13.2	12.9	12.7	12.6	12.3	12.2	12.7	12.6	12.8	13.3	12.8	13.3	12.3
生産	1 腹当生存子豚数(頭)	11.0	10.6	10.8	11.3	11.5	11.8	11.4	11.4	11.3	10.5	10.8	11.2	10.9	11.3	11.5	11.2	11.5	10.5
	1 腹当雄乳子豚数(頭)	9.8	9.4	9.3	9.6	9.8	10.7	9.9	9.8	9.4	8.8	10.2	11.2	9.9	10.6	10.1	9.6	10.1	8.8
技術	母豚1頭当生存子豚数(頭)	25.6	24.6	24.9	24.7	25.9	26.5	25.7	25.2	25.1	24.1	25.6	26.3	26.9	24.9	27.1	25.7	27.1	24.1
	母豚1頭当雄乳子豚数(頭)	22.6	21.7	21.1	20.4	23.3	23.6	21.8	22.2	20.6	19.8	23.9	25.1	24.0	22.9	23.3	22.1	23.3	19.8
飼育	1 腹当哺乳子豚事故(頭)	1.3	1.3	1.4	1.4	1.9	1.2	1.4	1.7	2.0	1.6	0.5	0.7	1.1	0.8	1.4	1.6	1.9	1.4
	育成率(%)	88.5	88.1	86.7	84.6	85.5	90.8	86.6	85.8	82.6	84.4	94.1	95.2	89.2	91.8	86.1	85.3	86.1	84.4
配	年間離乳日令(日)	26.8	25.5	26.0	27.0		26.4	26.1	26	27.2	26.5	23.7	23.3	22.3	25.8	29.0	27.8	29.0	26.5
	母豚更新率(%)	28.2	36.4	36.7	35.6	49.1	44.3	45.7	38.6	32.8	29.1	62.8	64.5	69.2	76.1	67.7	48.6	67.7	29.1
術	分娩回転(回)	2.32	2.32	2.31	2.18	2.25	2.24	2.25	2.21	2.21	2.31	2.38	2.35	2.47	2.21	2.35	2.30	2.4	2.3
	1 母豚年間出荷頭数(頭)	19.6	18.2	17.9	17.4	18.6	23.3	21.2	19.2	19.8	17.3	22.0	23.8	23.5	22.5	20.9	18.9	20.9	17.3
實	肉豚出荷1頭生体量(kg)	113.8	120.0	122.6	122.0	123.1	113.7	112.7	110.0	112.1	110.9	121.7	119.2	118.1	119.0	120.0	118.0	123.1	110.9
	1 頭当り枝肉量(kg)	74.5	78.6	80.3	79.9	80.6	76.2	75.4	73.7	75.2	74.6	80.5	78.7	78.0	78.5	79.2	78.1	80.6	74.6
技	母豚1頭当出荷枝肉量(kg)	1,384.9	1,401.3	1,410.5	1,360.0	1,465.8	1,735.4	1,559.8	1,392.9	1,467.4	1,275.0	1,725.7	1,874.4	1,834.3	1,780.0	1,660.5	1,467.1	1,660.5	1,275.0
	農場(経営)飼料要求率						3.03	3.07	3.12	2.99	3.50	3.44	3.27	3.30	3.36	3.37	3.44	3.50	3.37
術	枝肉経営飼料要求率						4.62	4.72	4.75	4.52	5.28	5.21	4.96	5.01	5.09	5.10	5.19	5.28	5.10
	事故率(糞乳一出荷)(%)	9.9	11.6	15.3	14.6	15.0	5.5	8.3	7.2	7.0	10.6	3.1	3.0	3.5	4.3	3.6	9.7	15.0	3.6

* 1 母豚年間出荷頭数=(肉豚出荷+後補豚繰出し+子豚出荷)/年間平均母豚数

No.1 過去3か年事故率

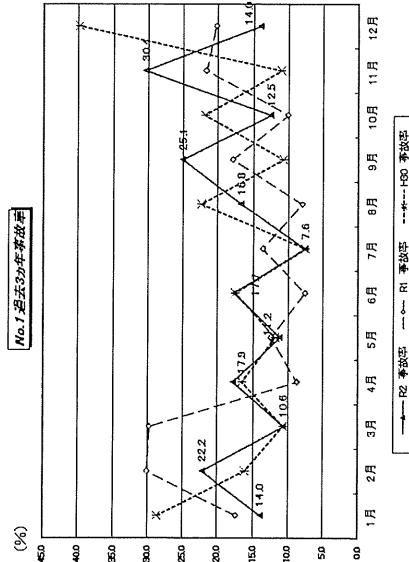


表-2 令和2年度 種雌豚1頭当り損益分析表

項目	(H28) NO.1	(H29) NO.1	(H30) NO.1	(R1) NO.1	(R2) NO.1	(H28) NO.2	(H29) NO.2	(H30) NO.2	(R1) NO.2	(R2) NO.2	(H28) NO.3	(H29) NO.3	(H30) NO.3	(R1) NO.3	(R2) NO.3	平均	最大値	最小値
期首棚卸高	86,987	83,535	84,375	79,909	79,740	96,859	89,850	76,603	105,865	94,436	203,076	200,473	157,465	162,356	132,783	102,320	132,783	79,740
(購入飼料費)	311,208	221,672	230,107	230,659	237,329	341,790	298,239	291,505	318,662	288,170	405,775	419,583	437,016	443,748	449,661	315,053	449,661	237,329
(衛生費)	60,068	60,672	56,951	56,837	70,465	32,342	37,326	50,205	51,792	51,079	102,259	85,354	82,952	56,265	52,992	58,179	70,465	51,079
(運搬費)	12,190	14,059	13,752	17,026	16,239	18,407	18,101	7,364	14,101	3,066	6,652	7,927	0	6,372	7,174	8,826	16,239	3,066
(諸材料費)	14,212	24,547	20,455	14,575	20,382	13,519	23,789	7,304	11,818	15,865	27,715	27,348	23,941	26,975	29,188	21,812	29,188	15,865
(修繕費)	11,356	9,791	11,898	19,879	6,874	33,334	53,887	2,958	5,856	5,335	20,518	19,603	18,431	23,092	21,289	11,166	21,289	5,335
(水道光熱費)	27,453	28,146	32,514	32,850	31,516	29,180	40,495	43,377	44,899	39,843	37,258	34,983	47,175	40,956	38,180	36,513	39,843	31,516
(減価償却費)	25,725	27,296	30,834	32,273	33,634	14,990	20,402	15,996	21,491	24,577	31,034	31,576	32,819	46,714	49,849	36,020	49,849	24,577
(人件費)	129,944	139,801	136,267	161,717	187,509	97,472	107,830	112,748	129,252	136,841	92,720	113,048	109,706	104,572	105,646	143,332	187,509	105,646
(飼養雑費)	13,144	3,421	2,050	1,243	6,199	3,268	3,428	0	2,591	2,744	2,286	2,793	1,159	2,072	6,039	4,994	6,199	2,744
生産費用	605,299	529,405	535,827	567,060	610,149	594,292	603,497	531,455	600,462	537,519	726,216	742,216	753,197	754,190	760,019	635,896	760,019	537,519
期末棚卸高	△ 87,939	△ 84,583	△ 81,806	△ 80,937	△ 78,525	△ 82,961	△ 81,822	△ 102,519	△ 96,417	△ 95,829	△ 197,366	△ 159,756	△ 161,168	△ 151,970	△ 148,042	△ 107,485	△ 78,525	△ 148,042
当期生産原価	596,068	517,593	529,339	555,815	597,121	588,519	595,020	492,630	605,063	528,266	731,926	782,932	749,495	764,576	744,759	623,382	744,759	528,266
販売管理費計	208,925	230,115	240,631	223,795	227,170	163,159	169,481	152,371	123,781	134,270	158,421	204,384	192,526	163,107	163,717	175,052	227,170	134,270
事業外費用	4,303	151,282	11,150	45,063	12,114	4,292	3,324	2,519	2,068	1,254	803	558	302	344	315	4,561	12,114	315
費用合計	809,297	898,990	781,120	824,673	836,405	755,971	767,825	647,520	730,912	663,790	891,150	987,874	942,323	928,028	908,791	802,995	908,791	663,790
生産物売上高	791,378	793,509	794,047	761,601	828,685	902,067	875,992	700,098	748,147	694,700	921,408	1,034,884	946,145	929,427	901,566	808,317	901,566	694,700
(肉豚売上高)	736,747	766,343	767,160	737,716	799,902	902,067	875,992	700,098	748,147	693,654	911,631	1,034,884	946,145	929,427	901,566	798,374	901,566	693,654
事業外収益	118,654	74,216	82,650	107,094	98,379	8,148	8,973	6,384	42,355	4,043	3,516	5,826	30,964	37,113	32,403	44,942	98,379	4,043
総収益	910,031	938,251	876,697	868,875	928,201	910,215	884,965	706,482	790,502	698,743	924,924	1,040,710	977,110	966,540	933,970	853,638	933,970	698,743
当期利益金	100,734	39,261	95,578	44,202	91,796	154,244	117,141	58,962	59,589	34,953	33,774	52,836	34,787	38,512	25,179	50,643	91,796	25,179
所得額	136,510	70,885	127,124	75,017	122,664	164,691	127,748	68,893	69,844	44,930	40,842	72,794	55,864	51,960	36,495	68,030	122,664	36,495

表-3 令和2年度農場別経済性分析表

項目	農場別		生産場別																平均	最大値	最小値
	単位	(H28) NO.1	(H29) NO.1	(H30) NO.1	(R1) NO.1	(R2) NO.1	(H28) NO.2	(H29) NO.2	(H30) NO.2	(R1) NO.2	(R2) NO.2	(H28) NO.3	(H29) NO.3	(H30) NO.3	(R1) NO.3	(R1) NO.3					
1. 売上高飼料費率	(%)	39.3	27.9	29.0	30.3	28.6	37.9	34.0	41.6	42.6	37.2	44.0	40.5	46.2	47.7	49.9	38.6	49.9	28.6		
2. 売上高人件費率	(%)	16.4	17.6	17.2	21.2	22.6	10.8	12.3	16.1	17.3	19.7	10.1	10.9	11.6	11.3	11.7	18.0	22.6	11.7		
3. 売上高衛生費率	(%)	7.6	7.6	7.2	7.5	8.5	3.6	4.3	7.2	6.9	7.4	11.1	8.2	8.8	6.1	5.9	7.3	8.5	5.9		
4. 売上高支払利息率	(%)	0.5	0.4	0.4	0.3	0.1	0.4	0.4	0.3	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0		
5. 売上高純利益率	(%)	12.9	4.9	12	5.8	11.1	17.1	13.4	8.4	8.0	5.0	3.7	5.1	3.7	4.1	2.8	6.3	11.1	2.8		
6. 売上高所得率	(%)	17.4	8.9	16.0	9.8	14.8	18.3	14.1	9.8	9.3	6.5	4.4	7.0	5.9	5.6	4.0	8.4	14.8	4.0		
7. 飼料1kg平均価格	(円)						43	41	44	49	41	45	45	48	50	53	47.0	53	41		
8. 生体kg当り販売額	(円)	349	358	356	356	358	349	376	338	342	365	350	365	341	348	359	361	365	358		
9. 生体kg当生産原価	(円)	282	242	246	268	267	226	259	256	275	283	278	262	271	282	303	284	303	267		
10. 枝肉kg当り販売額	(円)	532	547	544	543	546	520	562	504	511	545	530	553	517	527	544	545	546	544		
11. 枝肉kg当生産原価	(円)	431	369	375	409	408	339	382	355	413	415	425	418	409	433	449	424	449	408		
12. 出荷豚1頭販売額	(円)	39,663	42,949	43,683	43,396	44,051	39,635	42,364	37,117	38,438	40,649	42,642	43,508	40,278	41,348	43,101	42,600	44,051	40,649		
13. 出荷豚1頭生産原価	(円)	32,090	29,008	30,141	32,696	32,884	25,858	28,776	26,117	31,087	30,957	34,236	32,915	31,906	34,014	35,605	33,149	35,605	30,957		
14. 1母豚当り売上高	(円)	791,378	793,509	794,047	761,601	828,685	902,067	875,992	700,098	748,147	694,700	921,408	1,034,884	946,145	929,427	901,566	808,317	901,566	694,700		
15. 1母豚当生産原価	(円)	596,068	517,593	529,339	555,815	597,121	588,519	595,020	492,630	605,063	528,266	731,926	782,932	749,495	764,576	744,759	623,382	744,759	528,266		
16. 1母豚当り純利益	(円)	100,734	39,261	95,578	44,202	91,796	154,244	117,141	58,962	59,589	34,953	33,774	52,836	34,787	38,512	25,179	50,643	91,796	25,179		
17. 1母豚当り所得	(円)	136,510	70,885	127,124	75,017	122,664	164,691	127,748	68,893	69,844	44,930	40,842	72,794	55,864	51,960	36,495	68,030	122,664	36,495		

表-4 神奈川県養豚経営飼養技術分析結果の平均値

年 度		23('11)	24('12)	25('13)	26('14)	27('15)	28('16)	29('17)	30('18)	1('19)	2('20)
経営規模	診断集計戸数(戸)	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	労働力人員(人)	4.3	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9
	母豚常時飼養頭数(頭)	252.6	307.7	309.2	304.4	302.7	301.9	308.3	313.1	314.6	332.5
	雄豚常時飼養頭数(頭)	9.1	11.8	12.5	11.8	12.1	10.9	11.3	11.1	10.6	9.7
繁殖成績	1腹当生仔子豚頭数(頭)	10.4	11.0	11.3	11.3	11.3	11.2	11.1	11.0	10.3	11.2
	1腹当離乳子豚頭数(頭)	9.3	9.6	9.9	10.0	10.2	10.2	10.2	10.1	9.9	9.6
	1母豚当年間離乳頭数(頭)	20.4	22.2	22.9	23.4	23.9	23.4	22.9	22.4	21.3	22.1
	育成率(%)	89.7	87.2	87.1	88.7	90.3	91.1	89.9	87.2	86.3	85.3
	分娩回転数(回)	2.22	2.31	2.27	2.34	2.32	2.31	2.30	2.33	2.20	2.30
	離乳日令(日)	25.2	25.3	25.5	25.4	25.3	25.6	25.0	24.8	26.7	27.8
	母豚更新率(%)	44.4	43.4	43.6	41.3	39.6	45.1	48.9	48.2	48.2	48.6
肥育成績	1母豚当り肉豚出荷頭数(頭)	19.4	21.4	21.6	22.5	21.4	21.6	23.3	20.2	19.9	18.9
	肉豚出荷体重(kg)	113.0	112.6	112.2	110.7	114.0	116.4	117.3	116.9	117.7	118.0
	1頭当り枝肉量(kg)	74.6	74.2	73.9	73.2	75.4	77.1	77.5	77.3	77.9	78.1
	1母豚当り枝肉出荷量(kg)	1,422.1	1,555.2	1,561.0	1,623.7	1,596.1	1,615.3	1,611.8	1,545.9	1,535.8	1,467.1
	事故率(離乳一出荷)(%)	4.1	4.7	4.6	4.5	6.2	6.2	7.6	8.7	8.6	9.7
	農場飼料要求率	3.49	3.54	3.27	3.30	3.25	3.24	3.17	3.21	3.18	3.44
	枝肉飼料要求率	5.32	5.37	4.97	5.02	4.9	4.92	4.84	4.88	4.81	5.19
(参考)	県内豚飼養戸数(戸)	64	61	59	57	—	52	52	51	50	—
	県内豚飼養頭数(頭)	74,900	71,600	69,000	67,000	—	73,100	71,900	64,300	68,700	—
	県内1戸当り平均飼養頭数(頭)	1170	1173	1169	1175	—	1406	1,383	1,261	1,374	—

神奈川県 養豚経営経済性分析結果の平均値

年 度	23('11)	24('12)	25('13)	26('14)	27('15)	28('16)	29('17)	30('18)	1('19)	2('20)
診断集計戸数 (戸)	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
1母豚当り売上高	664,551	690,129	769,267	939,831	863,355	871,618	901,462	813,430	813,058	808,317
枝肉kg当り単価	452	425	478	552	518	527	530	522	527	545
1母豚当り飼料費	331,252	339,011	378,923	376,867	363,336	352,921	313,165	319,543	331,023	315,053
飼 料 単 価	44.8	42.3	52.2	(48.3)	(47.1)	(44.0)	(48.3)	(46.0)	(49.4)	47.0
1母豚当り生産原価	572,341	559,652	612,039	689,370	629,331	638,838	609,428	590,488	641,818	623,382
1母豚当り純利益	△ 19,283	7,033	25,743	65,087	66,909	96,251	52,472	63,109	47,434	50,643
売上高飼料費率	49.8	48.8	47.9	39.8	42.1	40.4	34.2	38.9	40.2	38.6
売上高人件費率	16.4	14.9	12.7	12.1	11.2	12.4	13.6	15.0	16.6	18.0
売上高衛生費率	7.2	6.8	6.8	6.1	6.7	7.4	6.7	7.7	6.8	7.3
売上高支払利息率	0.6	0.7	0.5	0.4	1.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.0
売上高純利益率	-3	1	3.4	7	7.8	11.2	7.8	8.0	6.0	6.3
売上高所得率	6.5	6.5	8.0	11.0	10.1	13.4	10.0	10.6	8.2	8.4